

地域医療研修を終えて

この度は、地域医療研修として新城市民病院総合診療科で四週間の研修をさせていただき、大変お世話になりました。

新城市民病院は奥三河地域における地域医療の中心であり、来院される患者さんは **common disease** から比較的まれな疾患まで様々で、日々の診察には専門分野の枠を超えた多くの知識が必要となります。

総合診療科での初診外来では、一人の患者さんに時間をかけて問診をし、診断へのアプローチを一つ一つ組み立てる重要さを実感しました。日常の診療でルーチンとしておこなっている検査をしつかり意味付けて選択することで、自分が何の疾患を疑い何の検査が必要なのかを、常に考えながら診察を行う姿勢を学びました。

翌週に自分で外来フォローをする機会もあり、自分の判断や治療が正しかったのかどうかを実際に確かめることができました。例えば、憩室炎に対して抗生剤を処方した症例、こむら返りに対して漢方薬を処方した症例、外傷に対してナートした症例など、その後の経過を自分自身で確認できることは、普段救急外来でファーストタッチのみ行う研修医にとって大変貴重な経験でした。

往診へ同行させていただく機会もありました。患者さんの診察のみならず、自宅での生活状況を確認し同居する家族の方からお話を伺うことで、実際に自宅で療養する上での問題点が浮き彫りとなっていました。患者さんとその家族が抱える問題は、医学の分野のみならず看護・福祉の分野にも大きく関わっているため、他職種の連携がより重要であり、またそれぞれの役割を十分に理解しておく必要があると感じました。往診による診療は診察室での診療とは異なり、患者さんの日常生活を中心に考えたものであると実感するとともに、高齢化がますます進む日本において今後重要な役割を担う医療提供の形だと思いました。

作手診療所は、作手地域における唯一の病院であり、より地域に根ざした医療を提供しています。新城市民病院と同じく外傷から内科的疾患まで様々な主訴の患者さんが来院されます。一般的な病院とは異なり、簡単に血液検査や画像検査が行えない環境においては、問診や身体診察が全てであり、まさに総合診療そのものであると感じました。

そして、夕方のカンファレンスでは、外来の症例の振り返りが行われました。指導医の先生方に症例を一つずつフィードバックしていただきました。自分の診察方法や選択した検査について、丁寧にアドバイスをさせていただくことにより、今後の診療においても役立つような多くの知識を得ることができました。

最後になりましたが、総合診療科の先生方をはじめとして、スタッフの皆様には大変お世話になりました。この経験を活かして、今後も患者さんの人生や日々の生活に寄り添った医療の提供を心がけて日々精進して参ります。四週間本当にありがとうございました。